

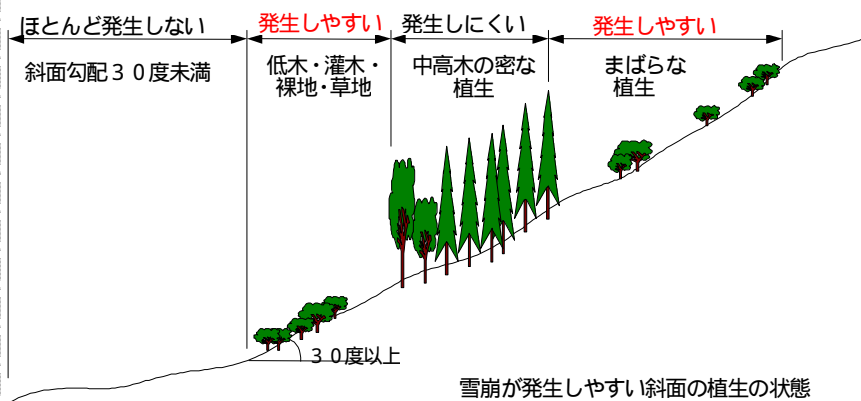
# 砂防ニュース 第27号

発行：新潟県土木部砂防課

発行日：平成20年11月28日

## 雪崩に気をつけましょう！ = 12月1日～7日は雪崩防災週間です =

まもなく本格的な雪の季節を迎えます。雪の多い新潟県では、毎年、雪崩が発生しています。雪崩はスピードが速く、起きてから逃げることはできません。雪のない時から、雪崩れの起きやすい場所やどのようなときに起こるかを知っておくことが大切です。



### 危険な場所

急な斜面が危険です。とくに、35～45度の間の斜面が一番危険です。また、低い木や草などしか生えていない斜面は注意が必要です。

### 危険なとき

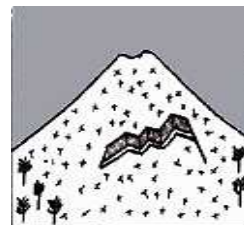
急な積雪があったときは、雪の上の層が滑り落ちる表層雪崩の危険性があります。また、急な気温上昇があったときは、地面に積もった雪がすべて滑り落ちる全層雪崩が起きる可能性があります。

新潟県では雪崩の危険があると判断される地域には、地域単位の「なだれ危険箇所マップ」を各戸配布し、警戒を呼びかけているほか、ホームページ上でも35,000分の1危険箇所地図を掲載していますので、ご覧ください。

## もし、雪山で雪崩にあったら、どうしますか？

近年、雪山登山やスキーなど、冬のレジャーの中で、雪崩にあうケースが多くなっています。今年の2月にも、妙高のスキー場で、プロのスキーヤーが雪崩に巻き込まれる事故がありました。雪山で行動中に、万が一、雪崩が発生したら、次のことを実践しましょう。

- ・ 流れる速度の遅い側縁部へ逃げる。
- ・ 岩や樹木などがあればしがみつく。
- ・ スキーやストック、スノーボードなどを体から離す。
- ・ 雪の中で必死に泳ぎ、もがき、浮上する努力をする。
- ・ 泳ぎもがいてもだめなら両手で顔を覆い、口や鼻に雪が詰まらないようにして、呼吸空間を確保する。



北海道雪崩事故防止研究会編『決定版 雪崩学』山と溪谷社 より抜粋

## 知っていますか？「三俣雪崩」～日本最大の雪崩災害～

今から90年前の大正7年1月9日、三俣村（現在の湯沢町三俣）を雪崩が襲い、158名の命を奪いました。村の中心部の半数が被災して、中には家族が全滅した家もありました。連絡手段が少ない時代で、しかも天候が悪かったため、救援が遅れました。雪崩による死亡者数では日本最大となっています。

## 2008火山砂防フォーラムが開催されました

火山砂防フォーラムは「火山噴火対策について火山を有する市町村や国の研究機関が意見、情報交換を行い、全国の火山地域における防災体制の強化・地域防災力の向上を図る」ことを目的に毎年開催され、全国から多くの人々が参加しています。

今年は10月30日・31日に新潟焼山(活火山)がある糸魚川市で開催されました。

### 小学生による焼山学習の発表

焼山のふもとにある上早川小学校5・6年生が焼山について半年間勉強した成果を発表しました。焼山の噴火の歴史や地元住民の火山に対する意識調査など興味深い題材をわかりやすく解説してくれました。

### 基調講演

藤井敏嗣さん(火山噴火予知連絡会会長)、伊藤和明さん(NPO法人防災情報機構会長)から火山研究や防災対策の現状、問題点について講演して頂きました。

### パネルディスカッション

「火山噴火に向けていま何をすべきか」をテーマに火山地域の市町村長と国や気象庁の火山担当者が意見を交わしました。火山活動の活発化により住民避難を経験した各市町村長のお話から、火山地域に暮らしているという意識を持ち、ハザードマップの内容をよく理解しておくことや、避難訓練を経験しておくことは非常に重要であることが伺えました。

### 現地見学会



火打山川1号えん堤を見学



小学生による学習発表



シンポジウムの様子

31日の見学会ではフォッサマグナミュージアムや焼山の火打山川1号砂防えん堤を訪れました。新潟県では現在、焼山をはじめ10箇所で火山砂防事業を実施しています。

今回のフォーラムには全国からはもちろん、地元からもたくさんの方が参加されました。火山や焼山を身近に感じるよい機会になったのではないのでしょうか。

# 市民活動・現場からのメッセージ **新潟市女性消防団 ひまわり隊**

昔から、消防団は地域防災の要ですが、みなさんは新潟市に女性消防団があることをご存知でしょうか。今回は、新潟市消防団 秋葉方面隊「ひまわり隊」の班長、菅井尚子さん、同じく班長の小菅美栄子さん、秋葉消防署地域防災課長の石川さんにお話を伺いました。

## 結成時期とメンバーについて教えてください。

新潟市女性消防団「ひまわり隊」は、平成18年10月1日総勢112名で発隊、うち秋葉方面隊には現在、19名の団員がいます。大学生から50代後半まで、年齢は幅広く、学生や主婦、仕事を持つ人などさまざまです。

## どうして女性消防団に入団されたのですか。

子供が自立して、空いた時間で地域のために何かできることがないか考えていたところ、ちょうど女性消防団の募集があり、説明を聞き、やってみたいと思いました。(菅井さん) 今は仕事を

の要請で、商店街でリーフレットを配ったりもします。男性団員は、消火活動を行います。女性団員は、主に広報などソフト面の活動をしています。

## 幼稚園・保育園を回る防災教室とは？

案内を出して希望があったところを訪問します。40分の時間で、子供があきないように、20分は手作りの紙芝居や人形劇で、火事は怖いという話をして、20分はゲームをします。ゲームというのは玉入れで、団員が火と煙の怪獣に扮し、かごをかづいて、いっぱい玉が入ればやつつけられたという感じ。3歳頃から火に興味を持つので、火の恐



**防災教室の様子**

ろしさ、また、火のときにはどうすればよいのかを教えています。今年度は、秋葉区内の公立、私立の保育園・幼稚園19件を回ることにしています。

## 活動内容は始めから決められていたのですか。

どういう活動をするかは、すべて団員で話し合って決めました。子供がいる人や仕事をしている人、自分たちが活動できる時間に何ができるのか、みんなで考えながら決めていきます。

## 地域防災でこれからの課題は何だと思いますか。

通常の火災であれば消防署だけで対応できます。しかし、地震などの大規模災害には消防団のような地域の力が必要になります。今は、サラリーマン化の流れから、消防団に入る人が減ってきているので、団員の確保がこれからの課題です。新潟市では、そのための対策の一環として、「消防団協力事業所」を募集し、従業員に消防団員がいれば、災害時に活動しやすいよう、また資機材等を提供してくれるよう、事業所自体に協力を呼びかけています。



**左が菅井さん 右が小菅さん**

制服装がまっています！ していますが、当時は、専業主婦で、子供が小学校に上がり、昼間空いた時間に、地域のために役に立つことがしたいと考えていたとき、たまたま、知人から女性消防団ができることを聞き、一緒に署で話を聞いてみて、やってみようと思いました。(小菅さん)

## どういう活動をしていますか。

団員19名を広報班、研修・講習会班、心のケア班、防災教室班の4つの班に分け、活動しています。広報班は、防火リーフレットや広報誌の作成をしてい



**救命救急講習会の様子**

ます。研修・講習会班は、講習会等を通じて、防火意識の高揚を図っています。心のケア班は、独り暮らしの高齢者住宅を訪問し、防火指導を行ったり、お話を聞いたりしています。防災教室班は、秋葉区内の保育園や幼稚園を回り、子供たちに防火の指導をしています。団員全体では、秋の火災予防週間などに、男性消防団員と一緒に消防車に乗って地域を回り、火災予防を呼びかけたりします。火災が多発してきたときには、消防署から

女性ならではのやさしさが、活動に活かされていると感じました。砂防と消防という分野は違うこそすれ、地域防災のためにできることは何か、みんなでアイデアを出し合って真剣に取り組んでいる姿を見せてもらい、大変勉強になりました。

## でかけてみませんか・・人柱供養堂（上越市板倉区）



人柱供養堂

上越市板倉区猿供養寺は、昔から地すべりの多発地帯で、地すべりを鎮めるために、旅の僧が人柱になったという伝説があります。

今から約70年前の昭和12年、畑の耕作中に、大がめを上からかぶせた状態で座禅をしている人骨が発見されました。人骨は、新潟大学医学部で調査され、年齢40～50歳くらいの関西系の男性のものであることが判明しました。また、かめは形から15世紀前半～中頃に焼かれたものであり、伝説が真実であることがわかりました。



地すべり資料館内伝説模型



地すべり資料館

人柱供養堂には、そのとき、発見された人骨が安置されています。また



人里での最高積雪深の模型

すべり止めのお守りや鉛筆なども販売されています。すぐ隣には、全国初の地すべりについて学ぶことができる「地すべり資料館」があり、近くには「糸しんの里 やすらぎ荘」という地すべりの工事に出た温泉がある宿泊施設もあります。

受験シーズンを迎えるこの時期、すべり止めのお守りの購入を兼ねて一度訪れてみてはいかがでしょうか。

### ～猿供養寺人柱伝説～

昔、猿供養寺では、毎年起こる地すべりに人々が大変苦しんでいた。そのころ、信濃の国から一人の盲目の僧が旅していて、村のそばにさしかかると、大蛇たちが地すべりを起こそうと話し合いをしていた。その話では、人間が栗の木の杭を四八たたきに土中深く打ち込み（杭打ちのこと）、人柱を立てれば、地すべりは防げるという。大蛇に見つかった僧は、他言すれば命はないと脅されて、命からがら村にたどり着いた。村に着いてみると、人々は地すべりに苦しみ、離散の相談をしていた。僧は、哀れに思い、村人に大蛇の話をした。そして、他言したからには命はないだろうと、自ら進んで人柱になった。

ご意見・ご感想・情報などをお寄せください。（次号は2月末発行予定）

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 新潟県土木部砂防課

TEL（直通）： 025-280-5424 FAX： 025-285-9724

E-メール： ngt080090@pref.niigata.lg.jp

ホームページ： <http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/index.html>



新潟県